

## 第 38 回榎野川河口域・干潟自然再生協議会会議概要

### 1 日 時

令和 7 年 4 月 26 日(土) 10:00～11:30

### 2 場 所

旧山口県漁業協同組合山口支店 2F (山口市秋穂二島 437)

### 3 主 催

榎野川河口域・干潟自然再生協議会

### 4 出席者

34 名(委員 23 名、委員外 11 名)

### 5 内 容

#### (1) 2024 年度の活動について

##### ア 2024 年度活動報告(資料 1-1:事務局)

- ・2024 年度の活動概要をまとめた No. 21 ニュースレターを作成し、HP に掲載した。
- ・5 年ぶりに干潟耕耘を実施した。
- ・ブルーカーボン WG がアマモ場の造成や観察会等、新たな取り組みを実施した。
- ・カブトガニ幼生生息調査・生物観察会では台風接近により、一般の参加者を募っての実施は見送り、協議会委員等の関係者のみで実施。

##### 【意見交換・質疑】

(委員) ナルトビエイ駆除の実施状況はいかがか。

→ 昨年度から実施者(漁協組合員)の不足により休止中。

##### イ 2024 年度ふしの干潟いきもの募金について(資料 1-2, 3, 4:事務局)

- ・収入としては、各所設置の募金収入のほか、講演やイベント等での募金の呼びかけ、企業からの寄附、取材による謝金があった。
- ・支出としては、「榎野川河口干潟再生活動」、「カブトガニ幼生生息調査・観察会」、「アマモの再生活動と観察会の開催」及び事務費があった。
- ・募金支援対象の実績報告書については、資料 1-3, 4 のとおりである。

##### 【意見交換・質疑】

(委員) ブルーカーボンの意義は将来的に収益を上げて持続可能な活動につなげることだと思うが、現状活動費を得ることに至っていない。今後ブルーカーボンを続けていくにあたっての見通しはどう考えているのか。

→ J ブルークレジットはアマモの面積によって計算されるため、山口湾のような天然のアマモ場に対する手法が得られていないことから、現状収入を得るには厳しい状況である。アマモ場面積は 16ha 以上であるため、生物多様性に関する活動として助成を得られないか検討している。J ブルークレジットについては、面積が明確となるアサリの被覆網に付着する海藻で認証できないか検討している。

(委員) 2023 年の活動において、4 月に網袋で保護した稚貝は 7 月の開封でどれくらい成長したのか。

→ 概ね 1 cm に成長していた。

(委員) 生物多様性や漁場としての魅力をもっと意識していくべきだと思う。

また、周南での藻場について報告を聞いたことがあるが、山口湾の取組としてはどうか。

→ 山口市の水産港湾課からの話であるが、カキ養殖等の活性化に向け、栄養塩の管理について関心があると聞いている。これに関する指標として、藻場の面積はどうかということであった。こうした動きにも注視しつつ、周

南の藻場などの知見から勉強していきたいと考えている。

## (2) 2025 年度の活動について

### ア 2025 年度年間計画について（資料 2-1：事務局）

- ・ 4 月 26 日の午後に行われる干潟再生イベントで設置する一部の網袋をファンクラブ対象の干潟再生活動として 10～11 月に開封する予定である。
- ・ 5 月 25 日にアマモ観察会を岩屋で開催予定である。
- ・ カブトガニ幼生生息調査は、8 月から時期を遅らせ 9 月に開催予定である。
- ・ 第 39 回協議会会議は、2026 年 2 月に実施予定である。

#### 【意見交換・質疑】

（委員）カブトガニ幼生生息調査の開催日を早めに決めてほしい。

→ 9 月の初旬で潮の良い日を決めて、早めに連絡するようにする。

### イ 第 7 回ふしの干潟いきもの募金支援対象活動について（資料 2-2, 3：事務局等）

- ・ 昨年度と同様に榎野川河口干潟再生活動、カブトガニ幼生生息調査・観察会、アマモの再生活動及びアマモ見学会の開催を支援することに加え、各 WG が活用できるように助成を行う。
- ・ 昨年度の夏の厳しい暑さを受け、その対策資材の購入を見込み今年度は夏季に行うカブトガニ幼生生息調査の支出見込を 70,000 円から 100,000 円に増額している。
- ・ 持続可能な里海づくり WG の活動については、船崎グループリーダーより説明。
  - 募金箱による募金活動に加え、ふしの干潟せんべいと干潟再生活動で使用する網袋をセットにした寄附付き商品の販売を行う。100 セット完売を目指すので、委員の皆様にもぜひ購入いただきたい。
- ・ ブルーカーボン WG の活動については、山本グループリーダーより説明。
  - アマモ場の拡大を図るための調査及び一般向けのアマモ観察会を実施する。観察会については、本日配布したチラシのとおり、5 月 25 日（日）に行う予定であり、本日の干潟再生活動の参加者にもチラシを配布し、参加者を募る。

#### 【意見交換・質疑】

（委員）ブルーカーボンの自然共生サイトへの登録について協議会でもっと協議していくべきではないか。

→ 他事例の情報収集を行い、協議会委員に共有していく。

## (3) 本日の干潟再生活動について（資料 3：環境保健センター 元永）

### ○経緯等

- ・ 榎野川河口干潟再生活動は今年で 21 年目となり、里海再生を目標に、指標生物としてアサリの保護を行っている。
- ・ アサリの食害を防ぐために、被覆網を用いてアサリの保護を行っていたが、被覆網の管理負担の増大や被覆網があってもアサリが増えない場所があることから、作業の効率化のため、稚貝を網袋で保護する方式を始めた。
- ・ 網袋の破損等がなければ、効率的に稚貝を確保でき、網袋の設置を被覆網の下にすることで、1 年程状態維持ができることが分かったため、引き続き網袋方式を実施する。
- ・ 昨年度の干潟再生活動で、干潟耕耘を行ったが、一か月で砂に埋もれてしまい、アサリ稚貝の着底増加は見られなかった。
- ・ 今年度 4 月の稚貝分布調査の結果、昨年度同時期より稚貝は少なく、全体的に東側へ稚貝の分布の移動を確認した。

○本日の活動内容

- ①網袋によるアサリ稚貝の保護・育成
- ②昨年度設置した網袋の開封・稚貝放流
- ③被覆網の撤去・交換、アサリ調査
- ④生き物観察会

- ・ 赤い網袋（寄付付き商品）で保護した稚貝は 11 月にファンクラブ対象の干潟再生活動で開封予定。
- ・ 緑の網袋（無料配布）で保護した稚貝は来年度の榎野川河口域干潟再生活動で開封予定。
- ・ 今年度は干潟耕うんの代わりに被覆網の下をアサリとともに掘り起こす。
- ・ 3 cm 以上のアサリは配ることのできる量を採捕できれば、配布予定。
- ・ 作業終了後には、参加者に対しアンケートを実施する。

【意見交換・質疑】

（委員）資料の中でアサリの殻長が成長していくグラフがあるが、炭素総量の観点でいうと、重量も重要だと思うが、重量のデータはとっているのか。

→ 過去行っていたが、最近では重量の調査は行っていない。今後検討してみる。

（委員）自然共生サイトへの登録はすでに検討しているのか。

→ 新しい制度であり、登録事例の情報収集など勉強していきたい。

（委員）今年の 4 月から活動として認められるようになったため、活動としての登録を進めてみてはいかがか。

現在、協議会の収入として、企業からの寄付が大半を占めているため、企業への還元として、自然共生サイトの PR はうまく使っていければと思う。宣伝になるが、5 月 1 日の 18~19 時頃に tys テレビ山口の mix にて里山ビオトープ二俣瀬が自然共生サイトに登録されたことで紹介される。

（４）事務局からの連絡（資料４：事務局）

山口新聞に当日の活動の参加募集に関する記事を掲載いただいた。

今後とも、各委員や地域の方々からも榎野川河口干潟再生に関する情報発信や普及啓発について協力をお願いする。